

2019年12月期決算

2020年2月14日



目 次

I . 会社概要

II . 2019年12月期決算の実績と 2020年12月期の見通し

III . 今後の展望

I . 会社概要

事業の構成



電子基板事業(FPC製造・販売)が主力



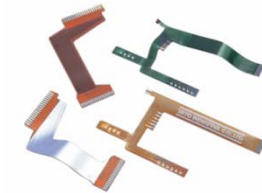
産機システム事業
104百万円 2.7%

鏡面研磨機事業
451百万円 11.6%



19/12期
決算の概況

電子基板事業
2,436百万円 62.5%



テストシステム事業
904百万円 23.2%

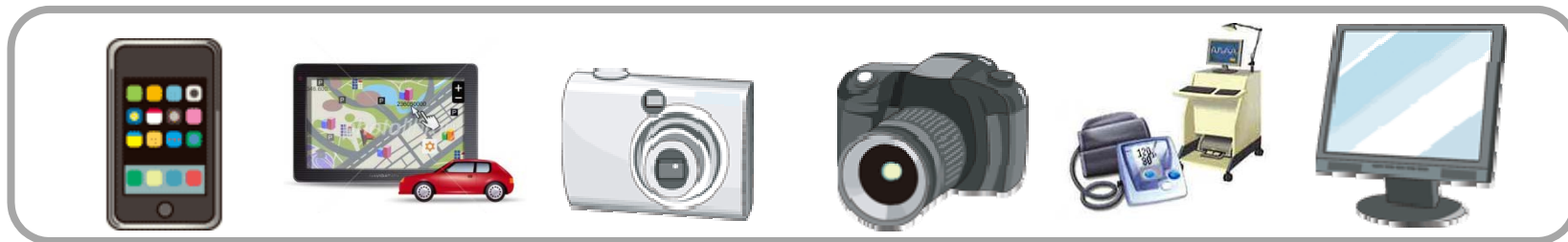
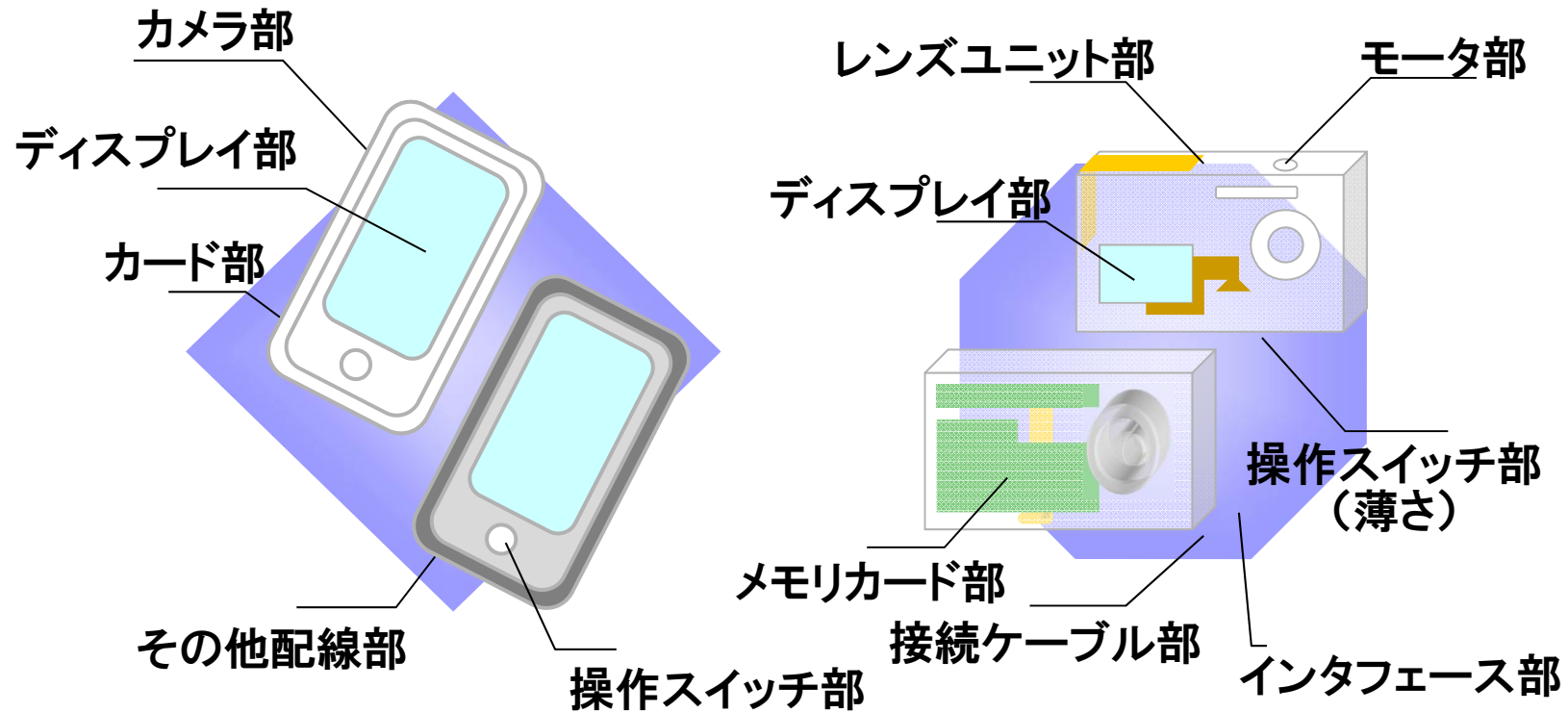


(注)FPC:フレキシブルプリント配線板の略。

FPCの用途



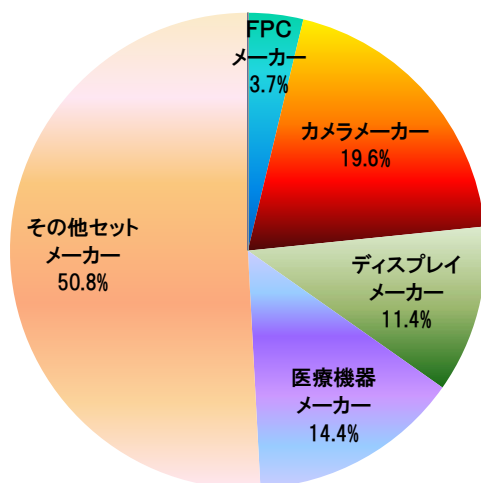
様々な分野で使われるFPC



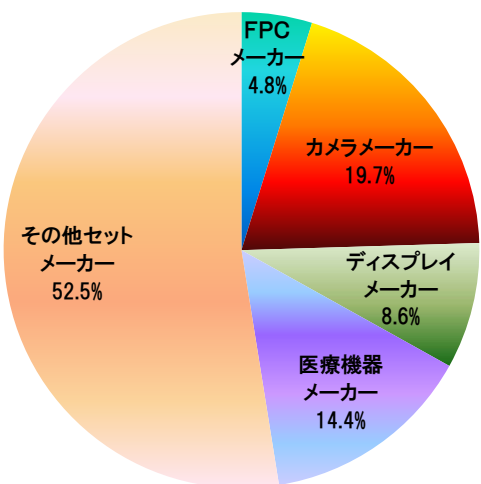
FPCの取引の状況(金額ベース)

顧客セグメント別

18/12期

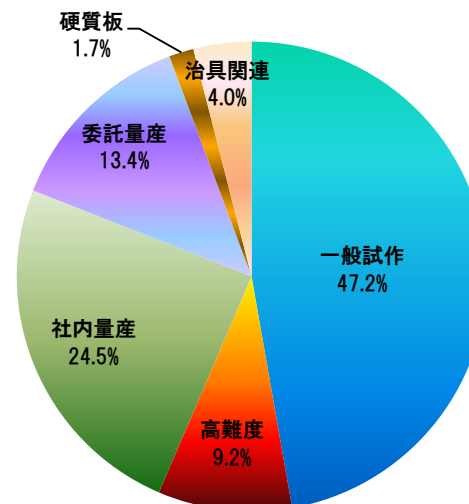


19/12期

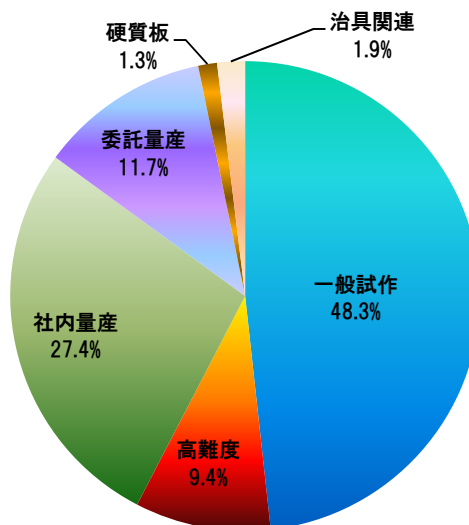


製品セグメント別

18/12期

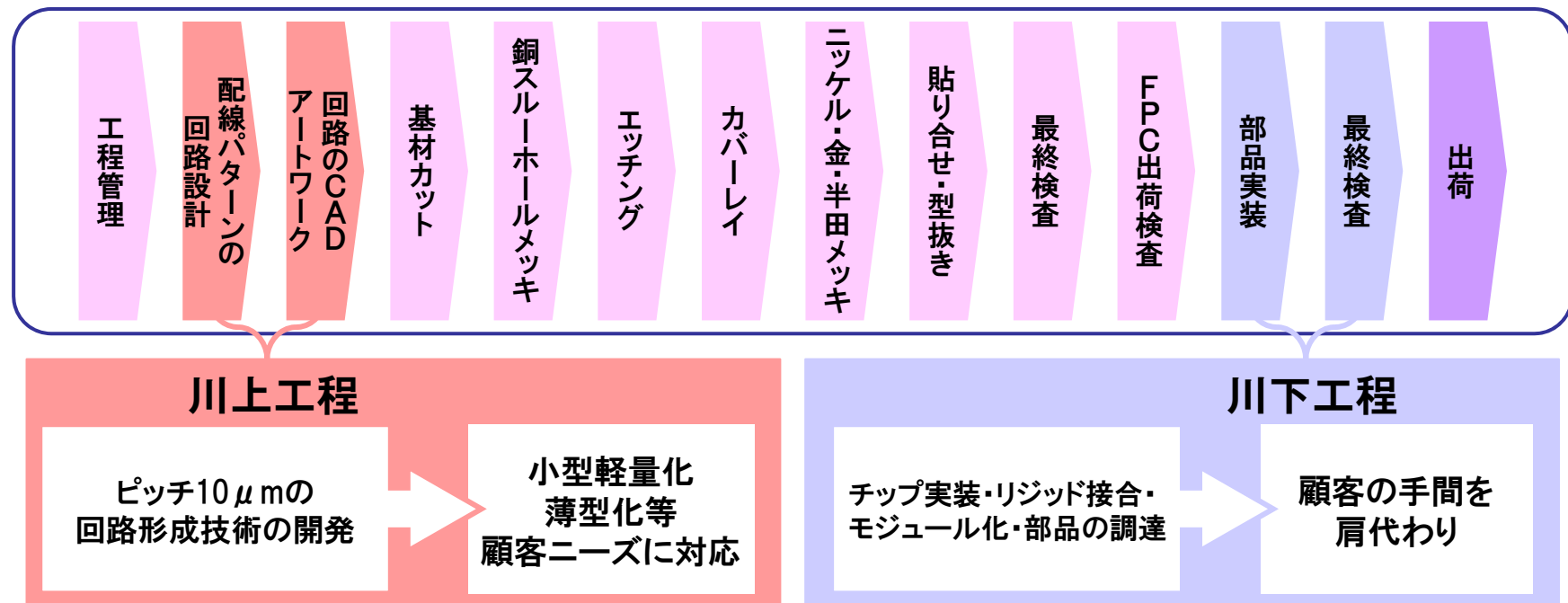


19/12期



FPCの製造工程

川上工程から川下工程まで幅広く対応



Ⅱ. 2019年12月期決算の実績と 2020年12月期の見通し

19/12期決算の実績

(単位:百万円)

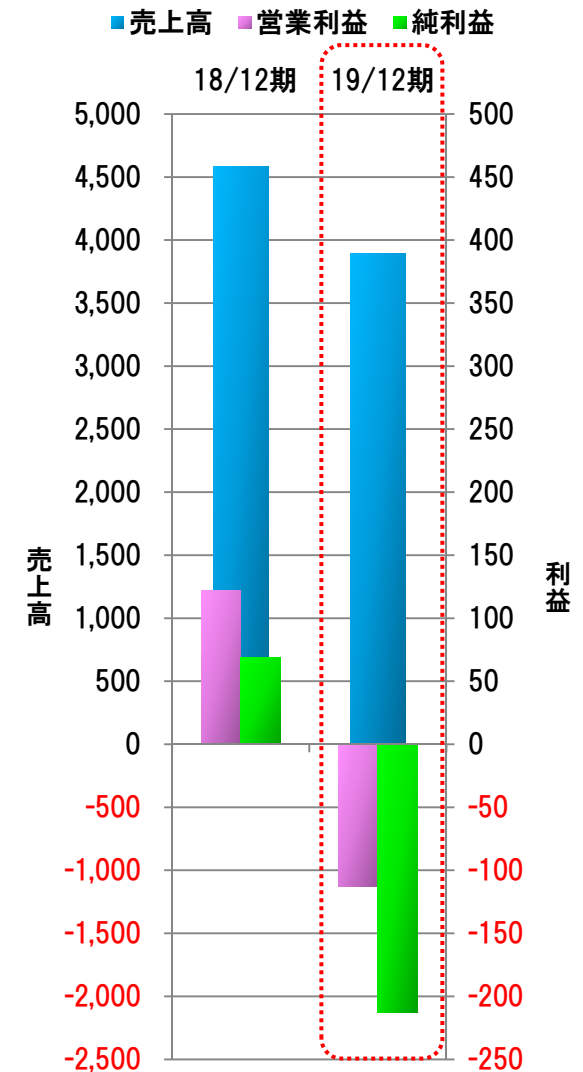
	18/12期 実績 (構成比)	19/12期			
		実績 (構成比)	前期比 増減率	計画※ (構成比)	増減率
売上高	4,582 (100.0%)	3,896 (100.0%)	▲15.0%	4,233 (100.0%)	▲8.0
売上総利益	1,318 (28.8%)	1,062 (27.3%)	▲19.5%		
営業利益	122 (2.7%)	▲113 (▲2.9%)	—	2 (0.1%)	—
経常利益	130 (2.9%)	▲87 (▲2.3%)	—	14 (0.3%)	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	69 (1.5%)	▲213 (▲5.5%)	—	33 (0.8%)	—

※1. 当初計画の修正計画を2019年7月29日に発表しております。

2. 19/12期は作業くず売却益及び受取保険金24百万円を営業外収益に計上しております。

3. 19/12期は固定資産売却益42百万円を特別利益に計上しております。

4. 19/12期は繰延税金資産の取崩し138百万円を法人税等調整額に計上しております。

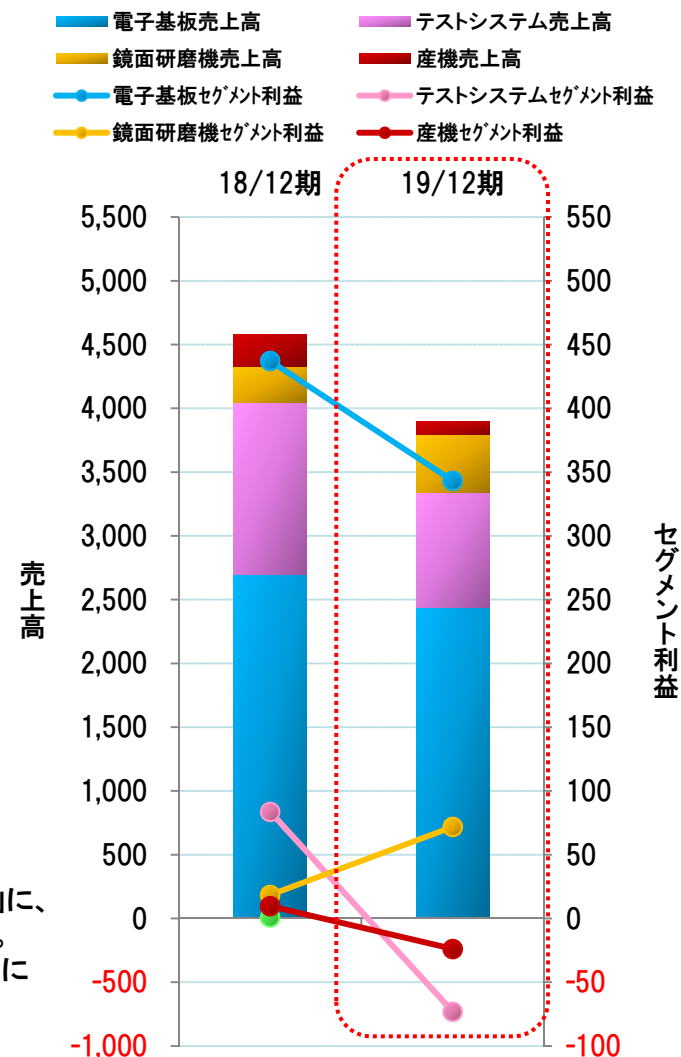


19/12期決算の実績(セグメント別)

(単位:百万円)

		18/12期 実績	19/12期	
			実績	前期比 増減率
電子基板事業	売上高	2,697	2,436	▲9.7%
	セグメント利益	437	343	▲21.5%
テストシステム事業	売上高	1,351	904	▲33.1%
	セグメント利益	83	▲73	—
鏡面研磨機事業	売上高	279	451	61.3%
	セグメント利益	18	71	288.2%
産機システム事業	売上高	252	104	▲58.8%
	セグメント利益	9	▲23	—

※19/12期より、従来「基板検査機事業」としていたセグメント名称を「テストシステム事業」に、「商社事業」としていたセグメント名称を「産機システム事業」に名称を変更しております。また、事業区分の見直しに伴い、「検査システム事業」については「テストシステム事業」に含めて記載する方法に変更しており、18/12期については、変更後の区分方法により作成したものを掲載しております。



19/12期決算の実績のポイント

電子基板事業

- 【売上高】・売上高は前期比9.7%減。
⇒FPC試作案件及び量産案件の受注減によりセットメーカー向けの売上が減少したことによる影響。
- 【利益】・セグメント利益は前期比21.5%減。
⇒売上高減少に伴う影響。

テストシステム事業

- 【売上高】・売上高は前期比33.1%減。
⇒米中貿易摩擦の長期化や海外経済の減速による設備投資に対する慎重姿勢が継続し、外観検査機及び通電検査機の販売が減少したことによる影響。
- 【利益】・セグメント損益は損失計上。
⇒売上高減少に伴う影響。

鏡面研磨機事業

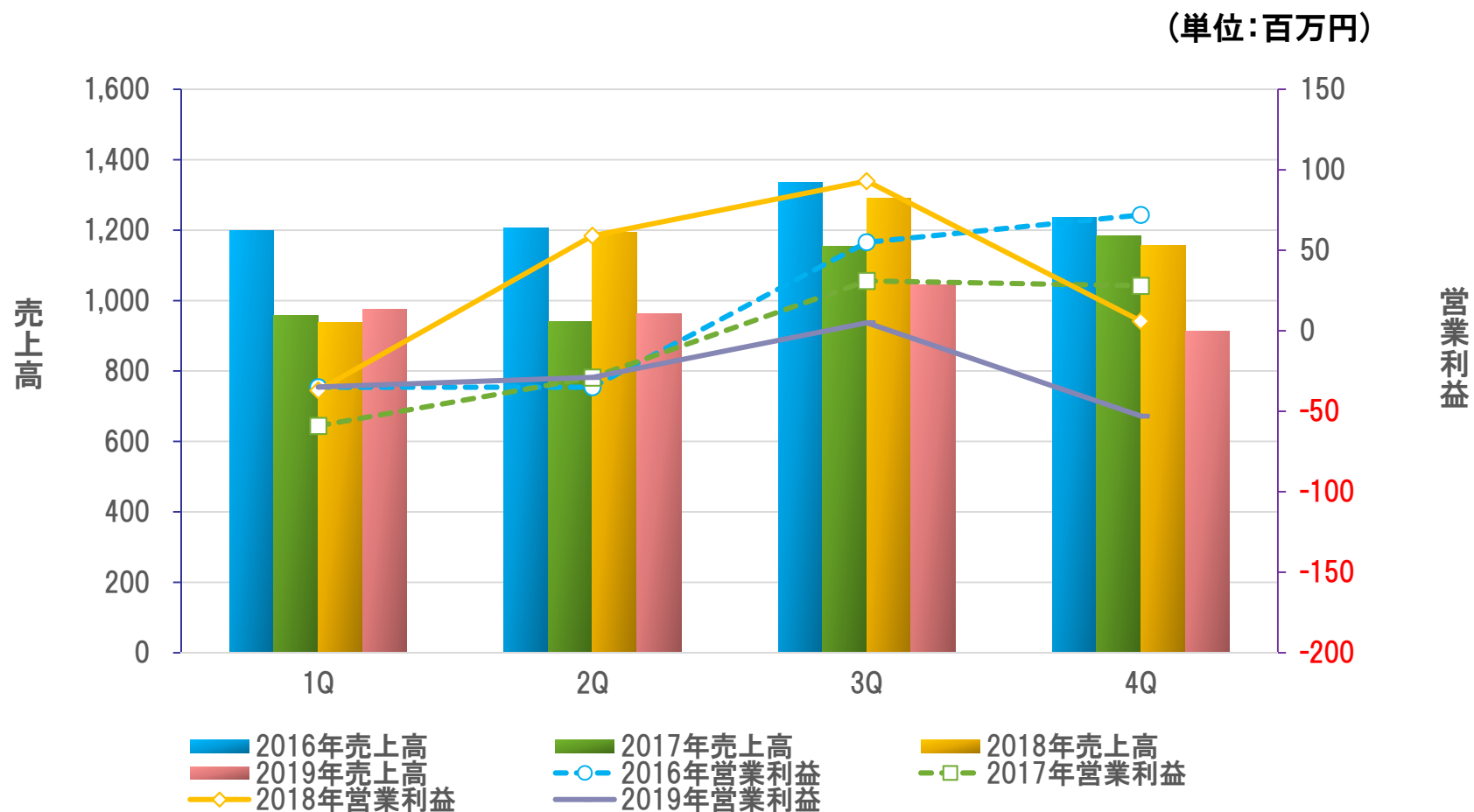
- 【売上高】・売上高は前期比61.3%増。
⇒研磨機の大型案件が想定どおり計上できたこと及び機械の修理・メンテナンスの受注が増加したことによる影響。
- 【利益】・セグメント利益は前期比288.2%増。
⇒売上高増加や売上高材料費率の低下に伴う影響。

産機システム事業

- 【売上高】・売上高は前期比58.8%減。
⇒新規商材の案件獲得が低調に推移したこと、産業用ロボット関連の案件において検収がずれ込んだこと及び中小型ディスプレイ向けの検査治具の販売が減少したことによる影響。
- 【利益】・セグメント損益は損失計上。
⇒売上高減少や人件費増に伴う影響。

19/12期決算の収益性分析

収益の四半期ごとの推移



財務の状況(資産・負債・純資産)

(単位:百万円)

科目	18/12期	19/12期	増減額
【資産の部】			
流動資産	2,583	2,718	135
（現金及び預金）	(983)	(1,361)	(378)
固定資産	2,672	2,355	▲317
（有形固定資産）	(1,904)	(1,687)	(▲217)
資産合計	5,255	5,073	▲181
【負債の部】			
流動負債	994	1,058	63
（短期借入金）	(467)	(505)	(38)
固定負債	963	946	▲16
（長期借入金）	(276)	(259)	(▲16)
負債合計	1,957	2,004	47
【純資産の部】			
株主資本	3,182	2,939	▲242
（資本金）	(800)	(800)	(0)
（資本剰余金）	(924)	(924)	(0)
（利益剰余金）	(1,458)	(1,215)	(▲242)
純資産合計	3,298	3,068	▲229

- 売上債権が減少
- 現金及び預金が増加

- 土地の売却及び繰延税金資産の取崩しによる減少

- 未払法人税等が減少
- 短期借入金及び未払消費税が増加

- 長期借入金が減少

- 利益剰余金が減少

※「税効果会計に係る会計基準」の一部改正に伴う表示方法の変更により、18/12期の数値を組み替えて表示しております。

財務の状況(キャッシュ・フロー)

(単位:百万円)

	18/12期	19/12期	増減額
営業 キャッシュ・フロー	▲32	261	294
投資 キャッシュ・フロー	▲19	▲88	▲68
財務 キャッシュ・フロー	▲238	▲72	166
現金及び現金同等物の 増減額	▲292	105	397
現金及び現金同等物の 期首残高	728	436	▲292
現金及び現金同等物の 期末残高	436	541	105

- 税金等調整前当期純損失及び法人税等の支払いにより資金が減少
- 売上債権の減少及び減価償却費により資金が増加

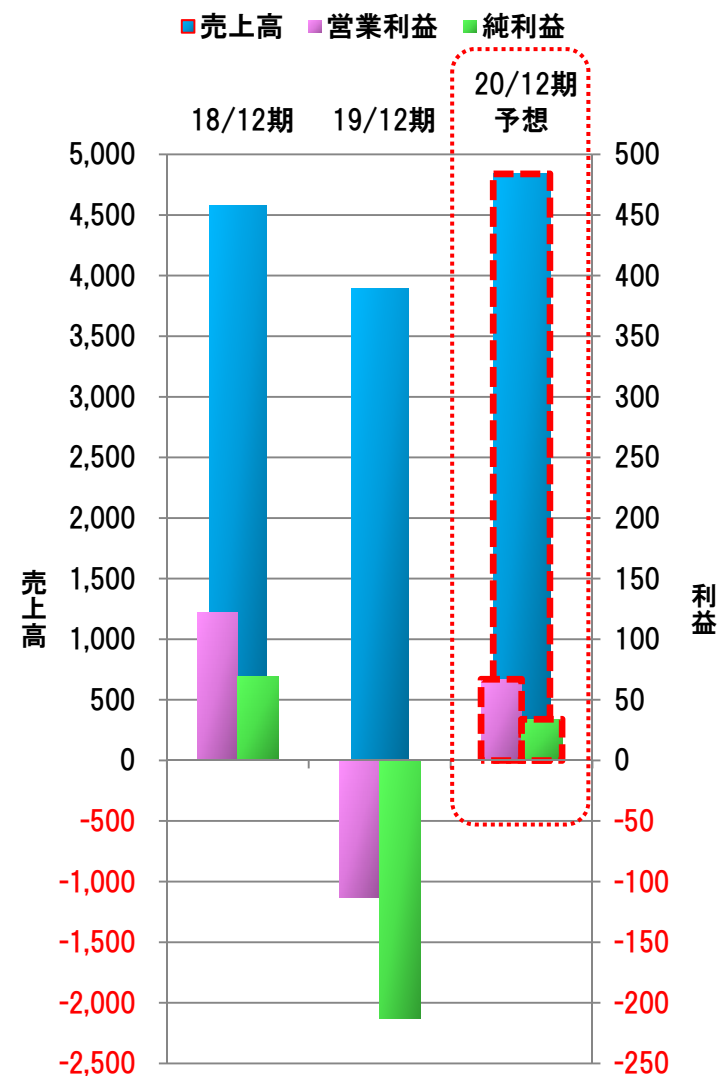
- 有形固定資産の売却による収入により資金が増加
- 定期預金の純増加額により資金が減少

- 長期借入れによる収入により資金が増加
- 長期借入金の返済による支出及び長期未払金の返済による支出により資金が減少

20/12期の見通し

(単位:百万円)

	18/12期	19/12期	20/12期	
	実績 (構成比)	実績 (構成比)	予想 (構成比)	前期比 増減率
売上高	4,582 (100.0%)	3,896 (100.0%)	4,840 (100.0%)	24.2%
営業利益	122 (2.7%)	▲113 (▲2.9%)	67 (1.4%)	—
経常利益	130 (2.9%)	▲87 (▲2.3%)	59 (1.2%)	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	69 (1.5%)	▲213 (▲5.5%)	34 (0.7%)	—



Ⅲ. 今後の展望

電子基板事業

5G市場の本格的な立ち上がりによる需要増加に対応

売上総利益率向上の取組み

【継続的強化】

- ・ UL追加取得による外注加工の内製化推進
- ・ 海外メーカーの量産委託先の立ち上げ
- ・ HP更新、マーケティングツール導入による新規顧客の獲得
- ・ 社内見積りシステムを再構築 ・ 製品カタログの刷新
- ・ 受注加工基準の見直し
- ・ 新規材料の採用 ・ 展示会出展で情報収集

収益基盤をより強固なものへ

【継続的強化】

- ・ 各種ツールを有効活用し、新規・潜在顧客の掘り起こし
⇒ 売上と顧客数の拡大
- ・ 生産設備の自動化、機動的な人員配置による省力化を図る
- ・ 新規設備投資による高難度製品等の工程内不良の低減を推進

→ 製造コストの削減

生産効率の更なる向上と内製化の更なる促進へ

2021年5月竣工予定 本社工場の建替えを決定

高周波FPC・高柔軟FPC・超極薄FPC等の次世代高機能FPCの製造を見据えた設備の移設・増設

高難度製品への挑戦

技術にテーマ性を持たせ高付加価値を創出

新製品・新技術創出

高付加価値

市場競争力の強化

高周波FPC

<用途>

- ・スマートフォン等の携帯電子機器
- ・光通信モジュール
- ・IoT機器
- ・映像機器(4K/8K)
- ・その他、同軸ケーブルの代替



高柔軟FPC

<用途>

- ・医療・健康科学用途スマートウェア
- ・スポーツ生体情報取得用途スマートウェア

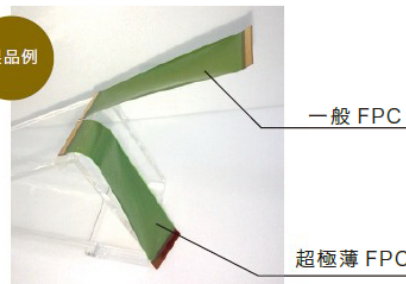


超極薄FPC

<用途>

- ・次世代ウェアラブル医療機器
- ・スポーツ科学用途のウェアラブルワイヤレス電子機器
- ・その他、軽量・省スペースの要求される電子機器

製品例



仕様・構造

■ 薄型片面 FPC (従来品)



■ 超極薄仕様片面 FPC



FPC
厚み 17 μm

テストシステム事業

基板最終外観検査装置のAIシステムを開発

高密度化・微細化が進むプリント配線板における
高い検査品質と徹底した品質管理に対応

検査の
効率化

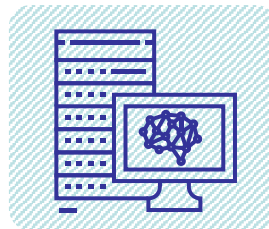
検査の
省力化

検査の
人員削減



欠陥検出

TY-VISION
XAIS(ザイス)



従来に比べ
確認数を相当数低減



安定的な収益の確保

治具メーカーとの協働による相乗効果

- 消耗品である検査治具のコスト削減要求

顧客ニーズに応えた製品ラインアップを拡充

- 車載・5G向け基板の信頼性要求の高まりから、高機能・高品質ニーズ
- 基板メーカーの目視検査要員の削減要望から、低機能・低価格ニーズ
- 車載基板メーカーから、大判対応ニーズ



治具メーカー

- ◆ 検査機・検査治具セット販売
- ◆ 汎用治具販売

- ◆ 価格競争力のある治具※製造

※検査装置に検査対象基板を装着するための個別専用器具。

① 海外進出の強化

- 治具メーカーのベトナム工場新設により、東南アジア地域での競争力確保

② 販売チャネルの拡大

- 高精細な基板に対応できる治具の種類を拡充

③ 設備投資需要の持続性の確保

恒常的な収益機会

顧客とのリレーション強化

検査機のリピートオーダー

鏡面研磨機事業



人材の確保・設備の充実
により営業体制・受注体制
を一層強化

産機システム事業
との連携強化

- 主な取組み
- ・ 機械の修理・メンテナンスの受注増加
 - ・ 研磨機に付随する周辺設備の入替需要に対応

堅実に売り上げを確保しながら
安定的な成長を目指す

産機システム事業

産業用ロボット関連のシステムインテグレーションサービスのスムーズな
立ち上げと早期の収益貢献へ

ラインアップの拡充

グローバル展開

グループ収益の向上

鏡面研磨機



(株)ミラック取扱製品

産業用ロボット



オートカットラミネート自動搬送装置
(当社での導入事例)



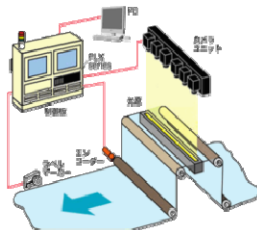
＜用途＞

ラミネートされたFPCを
ロボットで所定位置まで
搬送するための装置

＜特徴＞

どのようなサイズのFPC
でも自動でサイズを
認識し、搬送可能

シートフィルム
表面検査システム



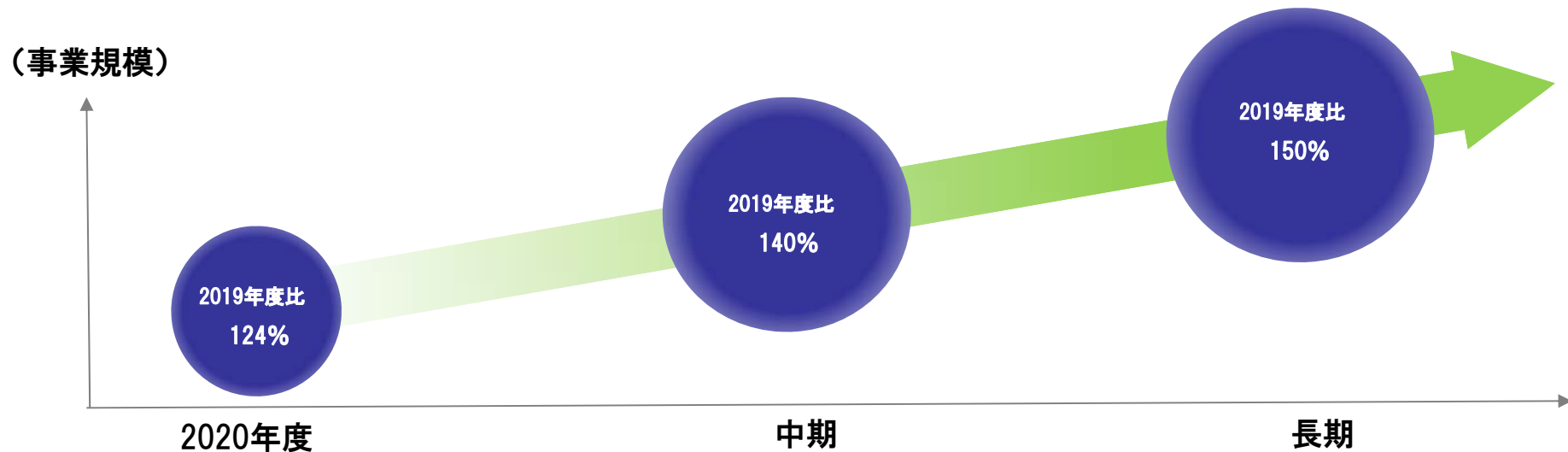
(株)マイクロエンジニアリング
取扱製品

点灯パネル
検査システム



中長期の事業戦略イメージ

ポテンシャルの高い事業に注力し、M&Aを含めた将来のための投資を実行



電子基板

- 社内量産を見据えた試作ビジネスモデルの再構築
- 電子工場の建替えや最新設備導入により5GやIoTニーズからの高難度対応
- エレクトロフォーミング事業の再構築
- 新規商材による車載分野への参入

テストシステム

- AI等の最先端顧客ニーズを取り入れた高付加価値検査機開発

鏡面研磨機

- 新たな業界への販路拡大
- 外注加工の内製化などによる利益率向上

産機システム

- 需要旺盛なロボット・FAのキャパシティの拡大
- 検査システム事業とロボット・FA事業の融合

SDGsについて

太洋工業SDGs宣言

当社は、2019年8月21日に「太洋工業SDGs宣言」を表明いたしました。

この表明は、2015年9月国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)を、世界の持続可能な社会の実現のための共通課題・社会的責任として取り組むべきものと捉え、表明したものです。

メーカーとして先端技術に常にチャレンジし、事業活動を通してSDGsの取り組みを行い、持続可能な社会の実現を目指します。

経済

先端技術に常にチャレンジ、 技術を通じて社会に貢献

エレクトロニクス産業の課題に対し、当社のプリント配線板や装置を通して、社会生活や労働環境のイノベーションをサポートしていきます。これからは、ネットワークを介してあらゆるモノがサービス化し、産業構造を大きく変えると予想されます。

このイノベーションに欠かすことのできない電子機器に必ず使用されているプリント配線板。また、生産現場の省力化・自動化に欠かすことのできない各種装置。

時代のニーズを先取りした技術革新を目指し、先端技術に常にチャレンジすることで持続可能なものづくりを実現します。



社会

平等な社会の実現と 多様な人材の活用

あらゆる人が平等で安心な社会の実現を目指すと共に、多様な人材が働きがいを持って活躍できる環境づくりと社会に貢献できる人材の育成に努めます。



環境

持続可能な豊かな地球環境

地球環境の保全が私たち人間の最重要課題であることを認識し、私たちの事業活動において、地球環境、地域社会との調和を図り、環境影響の低減に努力し、人と自然にやさしい企業活動を推進します。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

資料取扱い上のご注意

- ◆ 本資料に記載されております当社の将来の業績に関わる見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。
- ◆ 当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おき願います。